

林大だより



第 79 号 令和 2 年 3 月 19 日

長野県林業大学校翌協会



令和元年度 卒 業 式

祝・四十期生

翌松会 会長 清岡 祐一



長野県林業大学校四十期生の皆様・保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。二年前の四月親元を離れていく我が子を見送り、入学式後の懇親会で「子どもからのラインがこない。楽しい証拠と諦めました。」とお話しされていたのを思い出し、林大だよりという大切な物ではあります。が、この場をお借りし地元のプロテクトとして、子ども達の様子を報告させていただきます。

一年の四月「親からのラインがうざい」と訴えた子。「だったらフェイスブックにいい顔して載りなよ。親は心配だから毎日フェイスブックを見て探すから」と伝え、その後の屋久島研修を見て誰もが安心できたのではないのでしょうか。又そんな親心を察して些細な事でも更新してく

れた子。この何もない木曽町で誰もがバイトをして働いていました。色んなイベントにも参加し、沢山の地域貢献をしていたいただきました。夜遅くまで働く子の迎えに行き、「大雨で電車が動かない」と言われたら、迎えに行く姿もありました。車を側溝に落ちたり、パンクさせたり。どんな時でも必ず仲間がいてくれました。意見のくい違いでもめる事も多々あり何度も話し合い、そんな連続の日々でした。全て自分の責任で行動し仲間を支えていく、そんな姿を私は見守らせていただきました。又この木曽町には沢山の林大OBの方がいらっしやいます。その方からいただいた言葉があります。

「林大の友は一生の仲間だ」と。

貴方達四十期生はこれから別々の道へと歩んでいく。いつかOBの方と同じ気持ちになれたら、この二年間無駄ではなかったと思えるのではないのでしょうか。

「親の心 子知らず」から「子の心 親知らず」と大きく変化した林大生活だったと私は思います。

最後になりますが、校長先

それぞれの時

長野県林業大学校 校長 河合 広



います。四十年という時間が流れ、時代背景は違っても、「人をつくる」という観点では、指針となるものであります。

じっくりと観ながら頁をすすめていくと、会員（卒業生）の就職先であったり、結婚や出産のご報告であったり、木曽の歴史や史跡等を紹介した「木曽谷探訪」がシリーズ化していたり、じっくり読んでしまいました。開学以来四十年の歴史の中で、林大が地域に果たしてきた役割は大きく、時代時代に林大生が輝いていたことが計り知れる、そんな感じをうけました。

そろそろ、自分の言葉で書きます。

生をはじめとする多数の先生方、ならびに関係者の皆様、二年間御指導いただき、有難うございました。

昨年の秋から、林大を取り巻く環境が変化し始めました。企業との教育連携や林大のグレードアップを検討してきた成果でしょうか、男子寮の改築や福島県有林の演習林化への検討、そして、人材育成のための森林環境贈与税関係予算を活用した施設の整備（予算要求していただきました）など充実してきております。

また、地域の皆様にもっと林大を知っていただき、木曽地域全体で林大生を育てていただける体制も整いつつあります。ただ、地域の温かい目に甘えることなく、学生達が誇りをもって活動し、地域を活性化してくれることを願うばかりです。私事で恐縮ですが、公務員の最後の場面をこの林大で迎えられたことは、私にとって、とても大きなご褒美をいただいた気持ちであります。これからは、巣立っていった若者がそれぞれの場所での輝きを放ち活躍する姿を楽しみにしてワクワクしながら過ごしたいと思っています。

林大だよりに寄稿するのもこれで最後の機会になってしまいました。机の横のキャビネットに創刊号から綴ってあるバインダーがありましたので、一つ一つ、ひも解いてみました。創刊号の発刊時には、他界されていた初代校長の市川圭一氏の「甘えからの離脱」が載せられておりました。（おいきあいましたことあります）ありませんが、校長を引き受ける前に読んだ「山に教育あり」という初代校長の本が、熱意を持って学生に接する、行学一致の全人教育、今でも私のバイブルとして存在して

常任講師辞任にあたり

名古屋大学名誉教授

京都府立林業大学校長

只木 良也



昭和五十三年春、農林省林業試験場（現森林総合研究所）から、信州大学理学部教授として赴任した私は、長野県庁へ、大学先輩の市川圭一課長に挨拶に参りました。市川さんはこう言いました。

「君が信大へ？丁度いいところへ来た。手伝って欲しいことがある」。当時、市川さんは、その翌年開校予定の県立林大の設立準備担当。「新設林大の講師に丁度いい奴が来た」と。そしてその場で口頭ながら講師の約束をしてしまいました。おそらく私が、長野林大講師契約第一号？

翌昭和五十四年、長野県立林業大学校開校。そして市川さんはその校長の席にありました。日本には、西欧的近代科学では律しきれない日本独自の山の哲学がある、山村の

生活を抜きにしては日本の自然は護れない、といった市川校長の信念と理論を学生に伝える実践教育がスタート。そしてそれを支える「全人教育」、即ち真・善・美・聖と、健・富を兼ねた人格を育み、人間性の調和的な発達を目指して設定されたのが、自宅通学可能者も全員入寮して自主運営する「全寮制」でした。

開校後、順調に進み始めた林大でしたが、第一期生の卒業まであと半年残して、市川校長突然の他界。その訃報を聞いた教室で、学生達は涙を流したといいます。二十歳前後の若者達がです。すでに最終校正も終わっていた市川さんの教育理念を盛り込んだ「市川圭一著、山に教育あり」（清文社）は、葬儀ご参列の方々に手渡されました。

市川校長が敷いた路線を長野林大は走り続け、多くの人材を生んできました。その中には県林務部長をも含みます。私も多少なりともそれに

参画してきたつもりです。尤も、本務は名古屋大学農学部へと移り、ここで停年を迎え、その後名古屋で環境関連の企業に暫らく、その後故郷の京都に戻り、平成二十四年からは新設の京都府立林業大学校の校長を務めておりますが、その間ずっと長野林大の講師は続けてきました。平成三十年は長野林大創立四十周年でしたが、開校以来連続の講師は、私一人になっていました。六月のその記念式典で、私は阿部長野県知事から「感謝状」を授与される栄に浴しました。A3版ヒノキ一枚板のその賞状には、ずっしりと重みを感じました。そののみならず、翌年一月には、人材育成の功ありと県知事名の「ふるさとの森林づくり大賞」を頂戴するに至りました。前年夏の「県知事表彰」に重ねて、何か「盗っ人に追い銭」の感ありませんか。追い銭もらった盗っ人は勿論大喜びでしたが。

私は現在、この四月から九年目に入る京都府立林業大学校の校長を致しております。京都府は私の故郷で、老境に入った私が、名古屋から京都に戻った頃、京都林大はその

設立準備中でした。京都府のスタッフから、長野林大でのノウ・ハウを、問われるままに、私なりに助言はしていたのですが、蓋を開けてみたら「校長に」となっていた次第で、「この老人が」と慌てましたが。長野林大には、「商売敵に一寸出稼ぎに」と挨拶して京都林大校長の椅子に着きました。従って、京都林大には長野林大の真似がかなりあります。しかし、真似できなかったのは「全寮制」、これには設立経費のみならず、日常の運営経費の予算的処置が無理であつたようです。この点、

先年女子寮新設にまで踏み切った長野県を羨むこと頻り。

その後、「京都でも出来るのなら我が県でも」と思われたのか、全国で県立林大が「林立」状態です。そのモデルとして、四十年の歴史を持つ長野林大は何と

いっても老舗です。その長野林大で



10月 木望祭（寮祭）

の私の、開設以来四十年の講師経歴は、私の同一勤務として最長のもので、常々誇りに思ってきました。ところが四十一年目の昨年、健康状態思いに任せず、欠講くで、随分ご迷惑をかけてしまいました。申し訳ありません。今後は不定期単発的な講師として対応の約束ですが、何分「生前退位」認められる「高貴皇齡者（私は上皇様と同年）」ですので、どこまで……？

学生の
ページあす
なる
の
呟

つぶやき

学 校 ・ 寮 生 活 か ら

一年を振り返って

1 学年
大井 美涼

した。

この一年には屋久島研修や御嶽登山の二つの大きな行事がありました。しかし、この行事には大雨が付きものでした。屋久島では、大雨が降ったため足場も悪く登山をする上では厳しい状態でしたが、全員で縄文杉の前で写真を撮ったことは私の中で大きな

林大に入学してから半年以上が過ぎました。入学して寮に入った当時、私はとても緊張していて、この学校でうまくやっていたとしても心配でした。けれども、先輩方はとても親切でまた同じく入学してきた同期は、私にとっても親しくしてくれてすぐに林業大学校に慣れることができました



1 学年 9 月 測樹学（伐倒）

思い出の一つとなりました。私自身のことといえば、ただただ自然が好きという理由で長野県林業大学校に入学したため入学当初は林業とはなにか、仕事分野はどのようなものがあるのかと分からないことが多くありました。ですがこの半年間で林業について学ばせていただき、今は将来も夢も決まり、より充実して学校生活が送れています。そしてこれからも学校を楽しみながら生活していきたいと思っています。

私にとっての
長野林大1 学年
菅野 樹央

普通科高校を卒業後浪人していた私は、林業系の大学に進学したいと考えていました。ですが、高校や予備校の先生から紹介されるのは決まって「国公立大学の農学部森林科学科」でした。それは将来、林業の現場で働きたいと考えていた私のイメージと

は少し異なり、私は進路を決めかねたまま夏を過ごしていました。

そんなある日、インターネットで林業について調べていると、「林業大学校」というものを見つけました。二年制で、実習を主にした授業内容は私のイメージと一致しました。そ

んな林業大学校の中でも、長野県林業大学校は歴史が古く、周囲は多様性の高い環境に囲まれています。ここでの経験できない事がきっと沢山有ると思います、私は長野県林業大学校を選びました。

長野県林業大学校は全寮制という事もあり、現在は普段から友達と遊んだり勉強したりして過ごしています。他にも友達と掃除や洗濯をしたり料理したりなど、様々な経験をしています。



1 学年 10 月 森林土壌学実習

私は初めこそ林大での生活に不満でしたが、今では満足しています。あと数ヶ月で入学してから一年が経ちますが、これから先どの様な事が経験できるのか。二年生になると本格的な実習が増え、泊まり込みでの実習もあると聞いているので、今から楽しみです。

寮生活を
振り返って1 学年
坂

陸

自分は二十二歳にしてこの林大に入学しました。初めは歳上なので寮生活で浮くのではないかとという不安がありました。しかし今となれば皆、同い年のように話してくれます。時には喧嘩や問題が起き、大変な事もあります。

そんな毎日の繰り返しの中で、同じ事をして生きる。縛りと言えは、縛りでしょうが、共存と言えば大変な事を、全生徒四十人で実行していく。これは学生生活という人生の中でも、数少ない経験になります。



1 学年 10月 ハスクバーナトップガン研修

住めば都

1 学年
塚田

鉄馬

数々のトンネルを抜けるとド田舎であった。木曽福島駅に降りたとき思ったことだ。事前に調べてはいたが、本当に何も無いところだと着いてから改めて感じた。試験終わりの私を迎えに来てくれた祖母も泣いていた。可愛い初孫である私が、なにもない辺鄙な場所であんなに過ごすのかと思ったら不憫だと涙が出たようだ。

大学受験に失敗し足踏みした私は、同期より一つ年上だから仲良くなれるか心配だった。それに、家族でない他人と過ごすことにものすごく抵抗があった。そんな私だが、今では本校の一番良いところは全寮制でないかと思うくらい楽しく暮らしている。私のほかにも足踏みしてきた人はいたし、同期のみんなも年齢差を感じられないくらい気さくに話してくれた。おばあ

ちゃん、安心してください。木曽で楽しい毎日を過ごしています。残り一年、悔いの無いよう仲間と遊び尽くしたい。

寮で生活してから



1 学年

皆川 侑槻

私は、この林業大学校にきてもうすぐ一年になります。最初にこの学校に来た時は、期待に胸を膨らませているのと同時に不安も抱えていました。が、二年生の先輩や同級生の助けもあり一週間もすると寮生活に慣れ楽しく過ごせるようになってきました。

しかし入学から二カ月するとこれまで都会で自由気ままにやってきたことに対して全寮制の生活や木曽町の閉鎖感を感じるようになってきました。



1 学年 11月 造林学（枝打ち実習）

ですがそれも夏休みが終わった位から慣れ始め木曽福島の町で色々な発見をして楽しむようになっていきました。例えば多くの温泉であったり注文が通りにくい料理店だったり視点を変えてみると毎日面白おかしく過ごせることができるようになりました。そのため今では、不自由さがある中で最大の楽しみを見つけていることを教えてくれる町だと思っています。この学校は、多くのことを楽しみながら学ぶことができ協調性や思いやりなどが身につく良い環境をもっていると思います。もう一年と少し「不自由さの中の学び」をしていきたいと思っています。

二年間



2学年 内田 朋紘

林業大学校に入学して早二年。この春には卒業を迎えます。公務員として内定をいただき、春からの新生活に胸を膨らませていきます。私は浪人をしており、大学受験を失敗し林大にきました。最初は第一志望の学校に行きたかったと思いますが、いまでは林大に入学しよかったと思っています。なぜなら有意義な時間を過ごせたからです。

授業と独学の組み合わせにより、林業への知識を大幅に増やすことができました。

また、林大の教育方針である「全人教育」に基づき生活をしたおかげで、人間性を高めることがで



2学年 10月 架線学実習

きました。これらはここに来なければ得られなかったものです。

自分は学業、進路、対人関係、恋愛、すべてにおいて充実した二年間を送ることができました。この学校に入学すれば実りのある学生生活を送れることは間違いないでしょう。

最後に、林大、先生方、仲間たちに出会えたこと、また、この生活を支えてくれた両親、寮母さん、舎監さん、本当に感謝しています。二年間ありがとうございました。

チェーンソー
コゾウ

2学年 清岡 蓮

私が林大に入学すると、寮の同部屋の先輩は自分の二回りくらい大きい先輩でした。その先輩はチェーンソーの大会（JLC）に出るために毎日のように練習していました。その時は他の先輩と二人が代表として出場することが決まっていた。

私は同部屋を理由に先輩方のお手伝いの日々。毎日のように練習する木を運び、木屑をはく、そんな練習の成果も出て二人の先輩は好成績を収めました。

そして大会も終わり、やっと平和な放課後の時間を過ごせると思いきや私は寮祭で木を切ることにになりました。そこからは私もチェーンソーの練習を二人の先輩とすべく、二ミリの誤差も全



2学年 10月 森林気象学

期が懐かしくなるくらい私の周りには沢山の人が支えてくれていました。その時の私の呼び名は校長先生がつけてくれたチェーンソーコゾウに変わっていました。私は様々な人のおかげで大会でも良い成績をのこすことができました。これからはチェーンソーの大会に出て林業が一番カッコイイ仕事であることをアピールしていきたいと思っています。

二年間を
振り返って

2学年 田尻 春満

私は高校で森林について学んでおり、更に知見を養いたいと思い長野県林業大学校に進学しました。入学当初は人間関係が上手くいくかとても不安でした。しかし、全寮制ということもあり、直ぐに同期や先輩方と打ち解けることが出来ました。

人の布団でおむすびを食べる、ご飯粒を落としていく友

先輩達は妥協してくれませんでした。そのかいもあり寮祭は成功しました。先輩達が卒業し、私はいつしか林大のチェーンソー技術を引っ張っていくリーダーになっていました。そして先輩達のようにチェーンソーの大会に出たいと願うようになりました。そこからチェーンソーを買いい、防護服も買いました。周りの友人は放課後バイトをする中、毎日のようにひたすらチェーンソーの練習をしていました。大会関係者の人とも沢山のひと知り合い、友人に動画を撮ってもらったりと色々な人に協力してもらいました。

最初は木屑をはいていた時

人、ゲームばかりしている友人、筋トレばかりしている友人、チェンソーばかり弄っている友人、いつも独り言を喋っている先輩、とてもバラエティーに富んだ仲間に囲まれて楽しい二年間を過ごしてきました。

勉学に関しても屋久島研修を始め、地域との交流、オーストリア研修等なかなか出来ない経験を通して林学について多くのことを学ぶことが出来ました。また、林業大学校は先生方との距離も近く、悩みや就職について真摯に考えてくれました。これらの経験は私にとっても大事な思い出です。残り僅かな学生生活を仲間や先生方と楽しんで行きたいです。

振り返って



2学年
溝口 翔太

林大に入学して一年半が経ちます。二年前の四月、大志を抱きこの学び舎の門を叩い



2学年 10月 林業機械（総合実習）

たのが、ついこの間のように感じます。

残り少ない学生としての生活にも、いよいよ終わりが近づいて来ました。私自身、この二年間で林業についての技術、知識はもとより、それ以上に寮生活という集団行動で人間として一回り、大きくはないですが変化できたように思います。また、これから生業とする職に対しての準備と心構えができました。

木曾に越してきてから、行事やイベントにお手伝いとして参加させて頂き、様々な体験をすることができ、木曽福島の方々には大変お世話になりました。深い付き合いができる仲にもなり、交流



11月 樹木医学実習

も増え、福島のコミュニティに関われたと思います。

様々なイベントがあった二年間でしたが、特に昨年十一月に木曾で開催した「三林大伐木選手権」は、ホスト校である長野林大が主体となって運営し、結果として初の大会二連覇という快挙を成し遂げることができたことが一番の思い出です。

最後に、教職員の皆様、中村さん、舎監さん、寮母さん、いついかなる時でも生徒のことを気に掛けてくださり本当にありがとうございます。我々二学年は、三月林大を去り、各々の進路先で学んだことを活かし、それぞれの道を歩んでいきます。

思い返すと



2学年
鷲森 圭記

二年間という長いようで短かった林大での生活も終わりを迎えてしまいます。自分は昔から吃音症という障害を持って生きてきました。いくつ種類はありますが大雑把に言うとき詰まり出すときに詰まってしまうといった症状のものです。それなので人前で話すことが嫌いで避けていました。林大には全国様々な地域から生徒が来ていることを知っており、こんな自分がうまくやっていたとしても不安でした。実際に様々なところから来

た同期達は個性豊かで今まで関わったことの無いような人ばかりでした。しかし皆は吃音症ということを知らなくても早くから自分を受け入れて話してくれました。林大生活を最後まで送れたのは間違いなくこの四十期の仲間のおかげです。本当にありがとうございます。無事就職先も決まり心配も期待も膨らみますが、林大で得たことを活かして努力を続けていこうと思います。



2学年 12月 木材利用コース

保護者の
ページ絵
の
一
言木曾谷の
林業大学校

岡本 玲子



「長野県的林業大学校に行く」と息子が決めたのは高校二年生の冬でした。

三年生の夏に参加したオープンキャンパスは、創立四十周年ということで記念のシンポジウムも開催され、長野県林業大学校が林業や森林、木に関わる仕事を目指す学生を育ててきた歴史を感じました。

入学してまもなく一年。帰省の折に聞く授業や屋久島研修、御嶽山の登山道整備、木曾町駅伝大会参加など様々な経験の話は林大での充実した生活が伝わってきました。心配していた寮生活も、優しい先輩方や寮母さん、同級生の

皆さんのお陰で楽しく過ごしているようです。林大では林業の多様な分野を学ぶことが出来ますし、自然豊かな木曾で、周りの方にも恵まれた環境で息子が学んでいることを本当に良かったと思っています。

残り一年間、一日一日を大切に学生生活を送ってほしいと願っています。お世話になっている先生方をはじめ皆さんに大変感謝しております。今後もしよろしくお願い致します。

地球温暖化

桑原 弘毅



今年は暖冬で私の住む栄村でも雪が少なく、今まで私の記憶にない年になっています。例年ですと、二メートル

以上の積雪があるのですが、今年はまだ数センチしかありません。普段の生活は楽でいいのですが、夏の水不足が心配です。数十年に一度と言われる災害が毎年のように発生しています。昨年の台風十九号でも記録的な大雨による甚大な被害をこうわかりました。地球温暖化による影響ででしょうか。大雨による浸水や土砂崩れなど、今まさに森林整備の重要さを改めて考えさせられます。

さて、早いもので入学してから一年がたとうとしています。冬休みに帰省した息子の様子から、充実した学校生活を過ごせているようで安心しました。残りの一年はあつと言う間に過ぎてしまおうでしょう。一日一日を大切にし、自分の目指す仕事に就けるよう、努力を惜しまないでもらいたいです。それと仲間との時間を大切にし、沢山の思い出を作ってください。

自分の夢に
向かって

塩澤 豊



「木曾の林業大学校に行く」と決め入学して一年が過ぎようとしています。

はじまりは小学校の課外活動「緑の少年団」に参加した時でした。初めて木を切ったり、枝打ちなどを経験し、林業について話を聞き興味を持ったようです。中学生に

たくさんの
経験で成長

松野 文乃



娘が進路について考え始めた頃、何気なくテレビで観た

なっても思いはかわらなかったようで、三年生になり林業の勉強が出来る高校に行きたいと進路を決めていました。初めて耳にしおどろきました。が、頼もしく、成長を感じた時でした。

高校では海外研修に行ったり、色々な経験をしていくなかで、益々林業の道に進む決心が着いたのだと思います。林大の先生方、関係者の皆様にはいつも大変お世話になっております。

この先自分の夢を実現する為に色々経験して下さい。携わったすべての人に感謝する気持ちを忘れず、学校生活を過ごして下さい。

京都の林業学校のことを話しました。まさかそのことが林業学校に興味を持ち、長野県林業大学校に進むことになるとは思いませんでした。

高校でインテリアデザイン科だったので、木材に興味はあったようですが、虫が嫌いで登山もしたことがないのになぜ、という思いしかありませんでした。

娘の林大に行きたいという強い意思と、林大が全寮制で



周囲の方には迷惑をかけるかもしれないけれど、安心して行かせることができると思いい、送り出すことができました。

林大生活が始まってすぐの屋久島研修は、雨の中なんとか歩くことができた聞き安心し、御嶽山の整備登山前は毎晩電話で「絶対無理」と言

寮は 社会の縮図

森川 雅史



「君達はこの寮で二年間過ごした。それだけで素晴らしい成果だ。どんな試験にも耐えられる。」私達六期生が戴いた祝辞の一部です。

今、皆さんが寮での共同生活で疎ましく思っている全ての厄介な事象が全て各個人の可能性を無限に膨らませてくれています。

若い内は遠慮などせずに主張し、受け入れ、ぶつかり、

うので「大丈夫」と返すのを繰り返し、登れたとの連絡を聞いた時は、自分に自信を持つことができたのではないかと思います。

色々な経験をし、林大で学んだ知識を社会に出た時に役立てていけるよう、あと一年少しを大切に過ごしてほしいと思います。

励まし、伸ばし合ってください。

社会は皆さんが想像するよりも険しいものでしょう。自力のみで越えられない不条理を突き付けられ挫ける事があるかもしれない。

そんな時は寮生活を思い出してください。

仲間達の顔、二段ベッド、皆で入った風呂を。

仲間と協調できる貴方達は生活する中で得難い至高の社会訓練をしています。

大切な青春を山間で共に暮らした時間は皆さんの有機肥料です。直ぐに効果は出ませんが、確実に長く効いてきます。大丈夫、この経験に感謝しつつ自信を持って進んでください。

若い力で 地球を救って

一柳 達幸



地球人として、森林・林業分野の知識に出会えた林大二年間に感謝いたします。校長先生をはじめ、教職員の皆様、関係者の皆様による大所高所からの温かいご指導に、心より感謝いたします。

ヒマラヤ山脈で地球温暖化が深刻となり、「エベレストにハエが出現!」（標高五、三六〇

多くの出会いに

勝又 素子



息子が岩手から不安と希望を持って林大に入学してか

mでハエを目撃」と二〇〇九年十月に英紙が報道してから久しい。また、「世界終末時計」の針が三十秒進み、世界の終わりでまで過去最短の「二〇〇秒」となりました。これは、核戦争を引き起こすかもしれない核兵器問題より、地球規模の気候変動（温室効果ガスを減らし壊滅的な温度の上昇の抑制）リスクの回避が急務とのメッセージです。

世界の若い力（十六歳の環境活動家グレタ・トゥーンベリさん）は、二〇一九年九月「気候行動サミット」で、地球温暖化対策の必要性が急務であることを訴え「全世界を動員した急速な行動が必要」と大人たちの認識の甘さを非

ら、気が付くと卒業の時期を迎えていた事に驚いています。

屋久島やオーストリアなど、様々な研修や寮祭などのイベントは、息子にとってかけがえのない経験になったと思います。

この二年間、寮での話や木曾福島の方々の話をよく聞いたと記憶しております。学友の方々、教育の皆様や林大を取り巻く皆様に恵まれたもの

難しました。

ニュージーランドでも、若い議員は温室効果ガス削減法案について演説中、年配の議員からヤジを受けました。その際、若い議員がヤジに「オーケー・ブーマー」と切り返しました。オーケー・ブーマーは、若い世代の年上世代への苛立ち（年上世代の経済活動により汚染され、気候変動の危機に直面している地球）を象徴する言葉として世界中で拡散されています。

若い林大の卒業生も、林大での学びをスタートとして、地球規模な感覚と広い視野を持つた森林・林業分野の先達として「美しい地球の復活」を目指して活動し続けてほしい。

と感じております。

本人にとっても短く感じ、充実した生活を送れたのではないかと感じております。

林大で学んだ知識と、様々な地域出身の友人、並びに木曾福島の方々との交流を財産とし、今後の人生に生かしてくれることを期待しております。

最後に林業大学校の先生方、職員の方々に感謝申し上げます。

成 長

貞末 崇



赤いほっぺで「赤ーいほっぺのト・マ・ト。」と歌っていた小さな娘が、林業を学びたいと言った時にはどうしたものかと妻と悩みました。斑尾高原育ちなのに花粉症が酷く決して体が丈夫でもない娘が林業?と、応援してあげた反面「大丈夫か?」と不安と心配ですぐには賛成出来ませんでした。

高校時代「林大に行きたい」と毎年のように林大の体験に参加し娘の気持ちがかわらないことで進学が決まりました。

心配が絶えませんでした。が、入学式での先生方や先輩方の温かさが感じられ安心しました。

海外研修や実習などの通常の大学では学べないことを多く学び体験させて頂き、気づ

けば卒業まで後わずかです。

チェーンソーに魅了され「ハスクバーナが欲しい」と変わった女の子にはなりませんが、人としても大きく成長させて頂いた林大には感謝しありません。

四月からは、娘の希望でもある「故郷信州に恩返しが出来来る職業に就きたい。」という願いも叶いました。

ここまでお世話になった方々への感謝を忘れず、これまでの経験を生かし今後は恩返しが出来るように更に成長してくれることを願っています。

あつという間の二年間

原田 基寛



息子が林業大学校に進学先を決めた時、家族全員が喜びました。新しい環境に、しかも全寮制のところへ行く不安はありました。しかし、息子

には、とてもよいだろうとも感じていました。

入寮の日、先輩達が温かく、そして、テキパキと部屋へ案内してくれる姿を見て、この学校で正解だったなと思いました。

その日から林業大学校で様々な経験を積み、林業に関する知識や技術はもろのここと、人としての経験値も上げていただけたと思っています。「卒業したら、山に入って木を切る仕事をするよ。」と昨年の夏に帰省した時に聞き、自分の将来の姿を描きながら林業大学校で学んでいることも知り、安心できました。

これから、新しい一歩をまた踏み出そうとしています。楽しいこと、つらいことなど、たくさん経験すると思います。そんな時、これまで林業大学校のみなさんに支えてもらってきた幸せを思い出しながら、林業大学校で学んだ経験を糧に元気でやっていってほしいと思います。

林業を志して

両角 健一



先日、某テレビ局のセブングルという番組で、林業に従事している女性にスポットをあてた放送を拝見しました。今までの私であれば、見向きもしなかったかもしれませんが、気付けば夢中になっ



11月 3林大交流伐木選手権大会

て見ていました。その女性の仕事ぶりには、大変驚きました。重機を上手に操り、木材を搬出するための林道づくりにはじまり、十五mをゆうに超える大木を軽々と切り倒す姿に、言葉では言い表せないほど感動しました。

その女性は、絶対に山ではケガをしない事を一番のルールにしているそうです。その言葉を聞いて、私は共感しました。息子はもちろんの事、周りの仲間達、指導して下さる教員の方々、林業に携わる全ての人々が、いつも安全でいてほしいと、願っています。

今後、ますます便利な時代になり、クリックひとつで物が何でも手元に届く世の中になっても、木材は山から切り出してくる人の力がなければ、決して手に入れる事はできません。

息子には、人間が生活していく上で絶対必要となる林業という仕事に誇りを持って歩んでいってほしいと思います。

最後に林業大学校の関係者の皆様には、二年間の短い間でしたが大変お世話になり、本当にありがとうございます。

縁^{えん}を大切に

副村長
道廣
王滝村
越原
(第2期生)

林業大学校を卒業して早いもので三十八年が過ぎようとしています。卒業後は長野県職員として三十七年携わり、今は地元王滝村に籍を置き、村のためにと毎日奮闘してい

私の過ごした林大と
三十九期・四十期の
宝物たち！

参事兼教授
武田 雅宏

「この大学校で過ごす時間も残り僅かとなってきました。」朝礼での二年生のスピーチにこのフレーズが多くありました。という私も、県職員という職場をこの子らと共に卒業し新たな人生のステージに向けて感慨深い日々の中でこの原稿を書いています。

私は、この林業大学校に二

ます。当村は人口七四〇人余りと人口減少が進んでいるところですが、山々に囲まれ自然が豊かで心身を癒してくれる山村です。日本一古い村とも言われています。住んでいる人が自慢できる村、訪れた人がまた来なくなる村、そんな地域づくりのため、日々精進を重ねているところです。当初は副村長という重責が務まるのか、何ができるのかなどと悩みましたが、与

えていただいた職務を全うし、一人でも幸せを感じてもらえればと気持ちを切り替え、新たな挑戦を始めたところです。そんな心境になったのも、林大時代の同級生や先輩・後輩をはじめ、多くの方の応援があつてこそだと感じています。

が、これまでの私の人生を振り返ると「人との出会いは貴重な財産」になると感じています。どんな人と出会うかで人生が大きく変わることもあります。この人とは感じたら、お付き合いを続け大切にしていって下さい。その人を通じて、また新たな出会いがあり、徐々にその輪が広がり、多くのことを学ぶこともできますし、時には応援をしてくれたり、助けてくれることもあります。

はなかなか良い出会いは巡ってきません。いろんな機会を通じて積極的に出会いを求めてみて下さい。学生時代の同期、先輩・後輩を含め、これから多くの人と出会い、語り、議論をして人脈を広げて、広い視野で人生を切り開き、おおいに楽しんで下さい。

人材は社会の宝です。林大生であることの誇りを忘れず社会に貢献して下さい。

檜の
アドバイス

回で六年五か月と林政課企画係に次いで二番目に長く世話になりました。

変換するなど矢継ぎ早に実施した思い出は今も鮮烈に残っています。

トをしてきました。彼らは一致団結という手法でなく、個々がそれぞれの方法で、朝暗いうちから放課後暗くなるまでの練習、誰もいなくなった夜の講堂で一人だけの練習、休暇を返上しての資料作成など、私の胸が熱くなるような努力をし、中部森林技術交流発表会での高い評価を受けた自主研究、全国林業大学校対抗伐木選手権大会での圧倒的な優勝など大きな成果を上げてくれました。

そんな彼らが、希望の進路を確定して、林大という時を一生懸命に過ごし、卒業を控え、さらに食欲に思い出を創

一回目は、平成十八年十一月一日付けと年度途中に赴任し、林業離れが進むなか、学生定員が半数となる危機的状況を打開するための新教育課程と、三十周年記念事業を主に担当し、学生の全国募集展開、募集パンフ・ホームページの刷新、シラバス、インターンシップの導入、三岳演習林設置、そして、三十周年記念事業として二年生の北海道研修を海外研修（一回目は西アメリカ・セコイア国立公園・ヨセミテ国立公園他）に

二回目の今回は、平成二十九年四月、再びこの林大へ戻ってきて、幾つかの講義と三十九期・四十期の二つのクラスを担当し、社会に送り出すという幸運に恵まれました。

学生は皆夫々の特徴があり、三十九期・四十期というチームも「どうしてこれほど」というくらい特性は異なります。何かと怪物的な能力を持つ人材を中心に一致団結して活躍した三十九期に比べ、「お

ろうとしている今、私には彼らが、夫々が異なる光を放つ「宝石」に見えています。これらの「宝石」たちは、就職して、そして進学してから暫くは、林大での経験を成功体験として楽しく頑張ってくれるだろうと思います。でも、これまで経験したことのない困難や辛い経験も待ち受けています。このような時、この林大での良き友や先輩を頼れば何よりの力になってもらえます。そして大切なのは、周りの評価でなく「自分で自らを評価し」行先を「選択」していく覚悟ではないかなと思います。辛い経験を乗り越えより輝きを増した「宝石」たちに「また」一会えることを期待しています。

第6回全国林業大学校対抗伐木選手権大会開催報告

「相互の交流を通じ技術者養成教育の充実・向上を図る」として交流に関する協定を締結した長野県林業大学校・岐阜県立森林文化アカデミー・京都府立林業大学校は、令和元年11月14日(木)～15日(金)に、木曽町を会場に、「第6回全国林業大学校対抗伐木選手権大会」を開催しました。

大会は、初日(14日)、本校1学年が主体となってアテンド、木曽町の観光名所を巡る「木曽逃避行～初冬の中山道に消えたアノ人を探せ～」を開催、引き続き木曽町文化公園文化ホール駒王にて、各学校の紹介をユニークなプレゼンで行い懇親を深めました。



ほっこり 足湯で3林大交流!!



ユニークなプレゼンで各林大紹介!!

2日目(15日)は「長野県林業大学校」に会場を移し、枝払い、伐倒、チェーンソー組み換え競技など8種類の林業技術で技を競い合いました。

京都・岐阜・長野の3林大により開催されている全国林業大学校伐木選手権は6回目を数え、3林大の学生の技術レベルは大きく向上し、学生の大会優勝に寄せる想いも大きなものがあります。

「日本一の林業大学校」を目指そうという想いを共有した林大スタッフと学生と一緒に、4月から準備を始め、10月からは朝6時半からの1時間、夕方は暗くなるまで猛練習しました。その結果全8競技の内5競技で優勝、総合得点：長野22点 岐阜14点 京都14点と圧倒的な強さで昨年度に引き続き優勝を勝ち取りました。



真剣にそして楽しく技を競った3林大の選手!!



安全動作・正確なチェーンソーワークを競う!!

学校の技術的メンツをかけての大会となりましたが、競技会場の整備や大会で使用する木材の調達、そして入賞者への賞品については、ハスクバーナ・ゼノア(株)、(株)スチール、パークス甲信越(株)、他企業の方々、また、この大会に先立ち10月に設立された木曽地域の自治体、地元関係団体、企業、個人の皆様方を会員とする「我ら林大応援団」の方々の大変な御協力をいただくことでこれまでにない充実した大会とすることができました。

また、「我ら林大応援団」では、この5月に青森県で開催される第4回JLC(日本伐木チャンピオンシップ)への支援を決定しており、本校を代表して2名の学生が参加し、名実共に「日本一」、そして世界大会への出場を目指す予定となっております。

こうした、地域や関係業界の支援のもと学生と学校が一体となって行われた「第6回全国林業大学校対抗伐木選手権大会」は、本校の歴史に大きな一歩を記した大会となりました。



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058